谷口　和弥 議員

交通事故防止対策について

問 帯広警察署の資料によると、65歳以上の高齢者による交通事故が増加し、特に死亡事故の8割以上に高齢者が関係しているとされている。町としても事故防止に向けてできる限りの対策をおこなう必要があると考える。そこで以下の点について伺う。

①幕別町として高齢者の交通安全の啓発や環境整備の実施状況を伺う。

②幕別町が北海道公安委員会に対し要望している信号機や道路標識の件数、また、それらが設置されるまでの見通しを伺う。

③自転車による車道の左端走行が、より安全となるよう検討すべきと考えるがどうか。

町長 ①老人クラブごとの交通安全推進員に、リーダーとして啓蒙活動の推進に努めていただいたり、交通安全大会などで、町職員等が講師になり啓発にも努めている。環境整備については、危険な箇所への信号機及び交通規制標識の設置の要望に取組むとともに、歩道の整備や段差の解消、交通安全施設や案内標識の充実など、ユニバーサルデザインに基づいた道路整備を推進することに努め、人にやさしい道づくりを進めていきたいと考えている。

②平成20年度での状況は、信号機の新設等の要望は、36件要望し、3件が実施、交通規制標識の新設等の要望は、59件要望し、6件が実施された。毎年、かなりの件数が北海道公安委員会に、要望されるため、履行件数は、かなり厳しいという現状であり、今後とも住民の皆さんの安全で安心な日常生活を確保するために、粘り強く取り組みたい。

③自転車を運転する方の安全性を確保するため、必要に応じて、車道と歩道の段差を小さくすることや路面の整備などを行いたい。

自転車を運転する方に、法令順守のもとで歩行者及び自分自身の安全を図ることに十分留意しながら、運転してもらい、町では広報紙などにより更に啓蒙に努めていきたい。

公共交通機関の利便性の向上について

問 この10数年で札内地域の住宅は国道以北を中心に大きく広がり、幕別町百年記念ホールや札内スポーツセンター、白人の森パークゴルフ場など町の代表的な施設も設置されている。そこで公共交通機関について、以下の点について伺う。

①国道北側などのバス路線の確保や増便を関係者に申し入れるべきと考えるがどうか。

②4ヶ月の実証運行で終わった「町コミュニティーバス」の実施を再検討すべきと考えるがどうか。

③交通弱者へタクシー補助券・バス補助券などの発行や、外出支援サービスの拡充を検討すべきと思うがどうか。

平成20年度新設した信号機

町長 ①札内地区の国道北側への新たな路線の確保や現路線の増便については、バス事業全体が経営的に非常に厳しい状況が続く中、赤字分については国や道の補助を受けており、関係する市町村の負担も発生することから難しい面があると、認識している。

②高齢者が年々増加する中で、移動手段の確保や高齢者の交通安全の観点から、地域交通の確保は重要な課題だと捉えている。今後、コミュニティバス、乗り合いタクシー、外出支援サービスなど、いろいろな手法がある中で、望ましい手立てについて、さらに検討を加えていきたい。

③身体障害者手帳等の交付を受けている方は、タクシーの運転手に手帳を提示することにより、割引される制度や、特定疾患患者の通院等の助成、事業所の実施する移送サービス等により、ある程度交通手段は確保されていると考えている。高齢化社会の到来により、今後にどのような方策が望ましいか検討していきたい。

実証運行したコミニュティバス